奉謹啓候 陳ハ去ル十三日
當先ヘ肥筑諸郡ヨリ寄附候
至候御下之報告承候事
ノ告発ニ而風邪ニ而相成候由
捧ニ而手紙を以而申上候
之儀能々申上候ハ實ニ驚
入申候其意或ハ改正
有之候ニ付黨を激日印せしめ
一躍打ち尽ス之御策ニ
相成申候然れ共悪共喜悦
候ニ御座候
西薗浦君日吉士族又ハ
青年者之国ヘ請ヘ出
土地相歩ミ頃ニ至り候之
巡査ニ監督強迫実
者相常ニして兪和民黨
を挙ケ候ニ付東甘く
並挙者ニ退して右ニ而御を表
有様ニ而其党之所地
ニ而至其当地方ニ巡
査ニ至中ニ申上候
強迫之者ニ而有之候条
業を実施して民黨

遊筆者は追ひ去り物を表
有様に有事世念至極
に御坐候者地方に巡
査を立ち出し罪人を
強迫するの所あらず暴
漢を吏族して民黨し
為めに冬を者を殺打
せしめ又は民黨し遊
筆の勢れに押定せ
しむるに其良民を虐
するに至る語に語へるに
次第に御坐候甘ふ法
第に御坐候天野氏
を到底当遊六ヶ敷と
存じ申候
右首十二年呈一書也
二月十四日　曲陰林具

大隈公
閣下

二白天野氏之運動費も
宜外に多額に答ひ
其ゆへ殆ど程去るゆへ
候也